

これからの ファシリティ品質の キーワード

部会長 **野瀬 かおり**
のせ かおり

ファシリティマネジメント総合研究所
認定ファシリティマネジャー



1980年代にファシリティマネジメントという概念が日本に紹介されてから30年余りが経ちました。その間、時代の流れとともに、求められるファシリティ品質も変化してきました。(図表1)

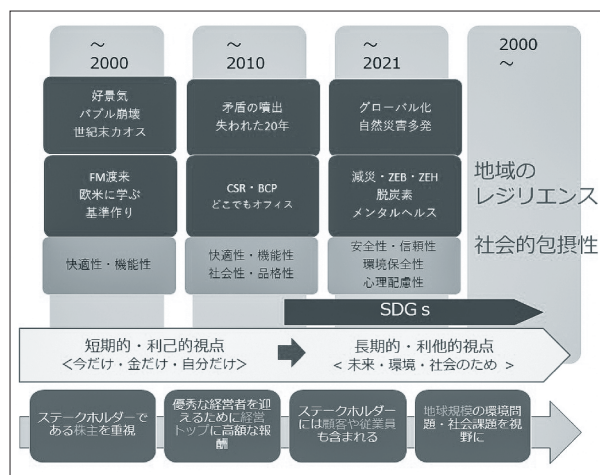
バブル景気に沸きそして崩壊した1990年代までは、オフィスの一人当たり専有面積や電話の台数などの基準作りが行われ、快適性・機能性が重視されました。2010年頃までは、CSRやBCPが目が向けられた結果、社会性が注目されるようになりました。それ以降(2021年頃まで)は、企業のグローバル化、世界的自然災害の多発など、地球規模の課題が増えてきました。また、ひとつひとつのメンタルヘルスが社会的に問題視されるようになるなど、環境保全性・心理配慮性が注目されています。

2000年頃まではとにかく急いで結果を出すことが求められ、企業はステークホルダーである株主の目ばかりを気にして、短期的な成果をコミットする、利己的なモノの見方をしていました。その後、優秀な経営者を迎えるために経営トップに高額な報酬を準備するようになりましたが、徐々にステークホルダーには顧客や従業員も含まれるという考え方が出てきました。そして地球規模の課題に向き合うことになったいま、長期的な視点で利他

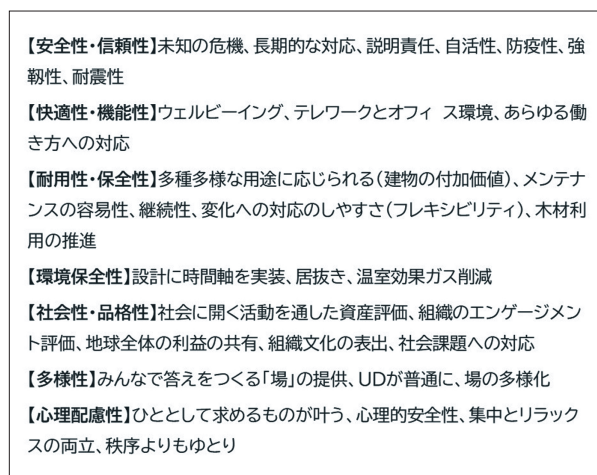
的に考える姿勢が求められており、地域のレジリエンスや社会的包摂性といった視点が必要になっています。

そのひとつがSDGs(持続可能な開発目標)だと言えます。当部会では、SDGsの17の目標と169のターゲットすべてに目を通してFM品質との関連がどの程度あるか眺めてみました。ひとつひとつ見ていく中で、「持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」、「強靱なインフラ構築」、「持続可能な都市及び人間居住を実現」など、FM品質と関係が深いキーワードが各所に含まれていることに気づかされました。SDGsから見えてきた、これから必要とされるファシリティ品質について考察し、これからこの社会で重要視していきたいファシリティ品質のキーワードをまとめると図表2のようになりました。特にグローバル化による多様性への要求や自然環境への配慮、社会性の重視に関連するキーワードが全体的に目立っています。また、一人ひとりの生き方を尊重する心理配慮性が、「ひととして求めることが叶う」「秩序よりもゆとり」といったように多角的に捉えられています。今後、ファシリティの品質評価をする際、これらのキーワードを参考にいただければ幸いです。

今後、部会では、具体的な事例をもとに、これらのキーワードを深掘りし検証する予定です。◀



図表1 社会の変化と求められるファシリティ品質の変化



図表2 これからの社会で必要となるファシリティ品質のキーワード
(評価軸の分け方は、『公式ガイド ファシリティマネジメント』とは異なります)